学習内容報告書 フォーマット

学校名	福島県　只見中学校
授業者	目黒英樹

1.　単元計画

1-1.　単元名

海洋の環境を考える

1-2.　学年

３学年

1-3.　教科（単元を実施する教科を全てお書きください）

総合的な学習の時間　理科　社会

1-4.　単元の概要

１.海洋プラゴミ（特にマイクロプラスチック）の実態を探る

昨今海洋プラゴミの問題が取り上げられており、その量は全世界で年間８００万トンにも及ぶ。その中でも、マイクロプラスチックについては回収することを考えると、困難を極める。昨年度新潟の海で海浜のゴミ拾いを通じて、子どもたちは現状の把握することができた。今年度はさらに深掘りをして、マイクロプラスチックに目を向けた。大きなゴミについては、海岸で見当をつけることができるが、マイクロプラスチックについては知識が必要である。修学旅行で宮城県東松島市を訪れ、実際にレクチャーしていただきながら学ぶことを考えた。この活動により上流に住む自分たちの行動が変えられ、考え行動できるきっかけを与えたい。

1-5.　単元設定の理由・ねらい

課題の解決を通して世界に目を向け、俯瞰的に物事を捉えられるようにする。地域の特性から海洋の視点を持ちにくいが、地域から活動発信していくことで生徒の視野を広げていきたい。

1-6.　育みたい資質や能力、態度

海洋の問題を通して、問題意識を持ち課題の解決に必要な知識及び技能を身につけさせたい。探求的な学習の中で、主体的・協働的に取り組むとともに、積極的に社会に参画しようとする態度を育みたい。

1-7.　単元の展開（全　５時間）

時数	学習活動・主な内容	教師の指導 / 主な評価 外部連携 / 使用教材等
1	・マイクロプラスチックとは何だろう？	 マイクロプラスチックの実態や、拡散状況を資料提示する。参考資料 ※『プラスチックプラネット』評論社
2	・マイクロプラスチックの弊害と拡散防止について	・プラスチック製のレジ袋に一片が５ミリの格子を書き、切り刻む。マイクロプラスチックの基準から考えると 9000 ピース以上のパーツになることを確認する。 ・河川の上流から流さないことで海の汚染を食い止めることができるということを学ぶ。
3 4	・マイクロプラスチックを実際に拾ってみる	・修学旅行でゲストをお呼びし、実際に砂浜に落ちているマイクロプラスチックを拾いレクチャーを受ける。東松島市の職員の方にも手伝っていただいて拾い集めることができた。
5	・マイクロプラスチックの実態をまとめる	学校に帰ってきてから、壁新聞形式にレポートをまとめた。マイクロプラスチックについて、その重量は多くなくても、個体数の多さに生徒は大変驚いた。プラボトルや、プラレジ袋の処分の仕方を考えるきっかけとなった。

2. 学習活動の実際

2-1. 単元における位置づけ

単元 | 5 | 時間中の | ３．４ | 時間目

※例：単元 10 時間中の 2 時間目 / 単元 15 時間中の 4,5 時間目

2-2. 本時の目標

マイクロプラスチックを実際に拾ってみる

2-3. 本時の展開

主な学習活動 / 反応	教師の指導・支援 / 評価の視点（方法）
○マイクロプラスチックを探す	・特にレクチャーはせずに、砂浜でマイクロプラスチックを拾ってみる。直径 2 センチ程度のマイクロプラスチックがたくさん集められる。持ち寄れるように指示しておく。
○講師によりマイクロプラスチックの説明を聞く	・講師のケンタロ・オノ氏により、目に見えるサイズのマイクロプラスチックから顕微鏡で見るようなものまであることを教えていただく。自分たちで探し出したものよりさらに小さいサイズがあることを知る。具体的な例を提示していただくように、打合せをしておく。
○拾ったゴミを回収し内容を確認する	・全員で拾ったゴミを集め、ゴミの内容を確認する。ゴミの内容を調べるために持ち帰るのではなく、記録に残すように指示をする。

3. 今回の活動の自己評価

昨年度、海浜ゴミ拾い活動を行い海浜の実態を大まかに捉えることができた。自らの行動を変化させられたのは非常に効果があった。今回は場所が違ってしまったが、よりマクロな視点で海洋プラゴミを捉えることにより、目に見えにくい影響などを学ぶことができた。サイズの小さいマイクロプラスチックにより、人体や自然に影響を及ぼしにくいと安易に考えるのではなく、上流に住む自分たちが細心の注意を払う必要があることも学ぶことができた。遠く離れた内陸から海を思うことにより、広い視野を持たせることができた。生徒が社会全体の前衛的な立場となり、自分たちだけでなく協力者を求める重要性に気づけたのも大きな成果である。また、本来であれば現地に行くのも容易ではないのだが、修学旅行の内容に組み込んだことにより、学びの集大成として位置付けることができた。また、講師についても環境について子どもたちに影響を与え続けているオノ氏に来ていただいたのは非常にありがたく、教育的効果も高いものとなった。

4. 今後の課題

実際の様子を観察できたことは非常に有効的だったが、今後継続的に観察する手段が難しいことが課題である。自分たちの行動を変えたり、発信することでどのように海浜が変わっていったかという変化が見えにくい。元来、只見町を流れる伊南川は日本海に注ぐ。そういった意味ではフィールドを代えるなど、何らかの方法で『見える化』していかないと、モチベートの維持には繋がらない。指導者としての課題はここにあると考える。

5. 本学習内容報告書活用にあたっての留意点

特にありません。

※実施した単元ごとに作成してください。
※写真、画像、図表等の使用可。必要に応じて記入欄やページ数を増やしても構いません。
※基本レイアウト
　フォント：MS 明朝、10.5 ポイント / マージン：上下端 20㎜、左右端 16㎜
※ファイル名は「学習内容報告書_学校名」とし、複数提出する場合は学校名の後に数字を記載してください。
　例：学習内容報告書_海洋市立パイオニア小学校 1
※年間指導計画（年間の指導計画における単元の位置づけが分かる資料）があれば別添資料として提出してください。フォーマットの指定はありません。